

本家門前屋のご紹介

【由来】 祖先是前野助左衛門（寛文2年：1662卒）。当家門前屋の元祖は孫の前野五右衛門（享保8年：1723卒）。当家3代目、前野善太夫（酒祖）が門前村で酒造りを始める（明和5年：1768）。安永9年（1780）、西新町（現老松酒造地）に移り酒造業の基礎を確立。天保元年（1830）、5代目、善太夫道富の時、家と稼業（酒造業）を分け、家を本家門前屋と称したのが当家の始まりで、門前屋の先祖を祀る。また、その後新たに酒造業を始める。

現家屋は天保14年（1843）頃に建築し、その後改築を重ねているものと思われる。

昭和52年まで「清酒三笑」銘で酒造、その間「南門醬油」なども稼業。昭和52年以降は酒販業、不動産賃貸業。（「三笑」は中国の故事「虎溪三笑」に因んで命名）

平成14年（2002）情報処理事業（デジタル工房本門）開業。平成22年（2010）、古い商家の店舗をそのまま活用した町家カフェ&ギャラリー「さんしょう」開業。

【建造物の特長】

- ・平成22年（2010）、兵庫県景観形成重要建造物に指定
- ・平成5年（1993）、兵庫県第4回さわやかまちづくり賞受賞（土橋通り車庫等）

北と東を道路に面して立地。表通りに面する主屋と壁続きの蔵が伝統的外観を保っている。主屋は木造厨子2階建、入母屋瓦葺平入り、2階外壁部分の漆喰塗りや虫籠窓、1階の格子、足元の犬

矢来などが風情を醸し出している。特に装飾性のある肘木は凝った造りで気品のある風格を醸し出している。

東西通りに面して店構えが長く、南北通りに対しても主屋の南に外観意匠を合わせた

倉庫・車庫が並び、古い酒蔵の並ぶまちなみと調和する木造建築が評価され、平成5年、兵庫県第4回さわやかまちづくり賞（建築物部門）で表彰されている。



表通りに面した長い店構えの主屋



装飾性のある肘木

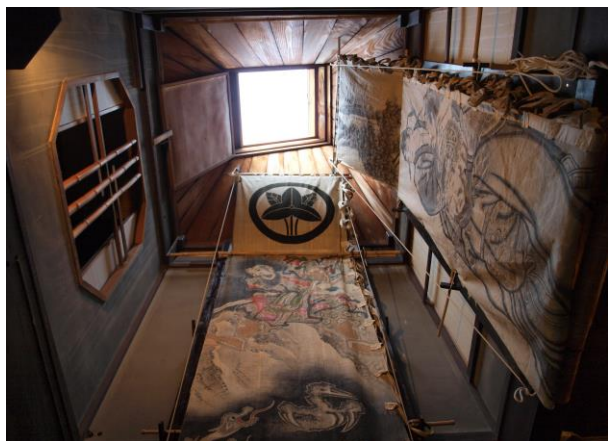


東面主屋の妻壁と意匠を合わせた倉庫



さわやかまちづくり賞で表彰された車庫

商家の店舗部分（カフェ「さんしょう」で使用部分）：吹抜きの明り取り窓、2階の吹抜けに面した茶室の八角窓、丸窓、2階への釣り階段跡など往時の商家の粋な暮らしぶりがうかがえる造作。



吹抜けに掛けられた節句幟と
茶室の八角窓



古い調度や家具で懐かしさを醸し出す
カフェ空間

吹抜け下に設置された大きな木株のテーブルや木株のスツール、石畳、仕切りの格子建具、並べられている古い家具・調度品なども、レトロな雰囲気醸し出す。

また、吹抜け明り取りに掛けられた古い大きな^{せつこく}節句^{のぼり}幟（当家に残る3本の幟の内2本）は特長的。そのうちの1本、「古事記」や「日本書紀」にも登場する^{すさのおのみこと}素戔男尊の「^{やまたのおろち}八岐大蛇」退治の図柄には、上から当家の家紋（^{おもだか}沢瀉）、^{くしなだひめ}奇稻田姫、素戔男尊、八岐大蛇、最下部に大蛇を酔わせるために使った「^{やしおりのさけ}八塩折酒」が描かれている。日本酒発祥の地と言われる宍粟の旧造り酒屋に「八塩折酒」が描かれた古い幟が伝わるのも興味深い。



「八岐大蛇」退治図柄の節句幟
下部に「八塩折酒」が描かれている



石畳の土間に置かれた木株テーブルと椅子